



図 健康観を判断するにあたって重視した事項（厚生労働省政策統括官付政策評価官室委託「健康意識に関する調査」から）

健康の定義として、最も有名なのは1948年にWHOが設立されたときのWHO憲章前文です。「健康とは、病気でない」ということでなく、肉体的にも、精神的にも、社会的にも、生活の側面（多面性）があることを紹介しました。周囲の人と支えあう関係にあり、生きがいを感じますし、社会性があることがフレイルや認知機能低下の予防につながっています。

「おいしく飲食できる」「病気がないこと」

※次回は「社会的に満たされています」とあります。

◆毎週月曜連載 桐生大学・桐生大学短期大学部副学長の山科章さんは、同大学医療保健学部の学生などに講義も開講している。

桐生市では介護予防の一環として「元気おりおり体操」を動画配信している。動画は桐生市のYouTubeチャンネルや市のホームページから見ることができます。子ども向けの動画もある。

## 人生100年時代の健康管理

桐生大学・桐生大学短期大学部副学長 山科 章



【プロフィル】広島県生まれ。1976年広島大学医学部卒業後、聖路加国際病院内科勤務。99年東京医科大学循環器内科主任教授。2020年5月から現職。総合内科専門医、日本循環器学会専門医、前日本循環器病予防学会理事長。

## ⑫原点に戻つて健康とは何か

期間」と定義されており、世界保健機関(WHO)により提唱されました。と紹介しました。ところで、健康とは何でしょうか。今回は原点に戻つて、健康とは何かを考えみたいと思います。

このシリーズの第2回で健康寿命とは、「健康上の問題で日常生活が制限なく生活できる

精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にある」というものです。いまも世界中で広く使われており、前回紹介した「小澤利男先生の期待される85歳像」には、この考え方反映されています。

この定義の重要なところは、病気でないことが、イコール健康で

ています。

この定義の重要なところは、病気でないことが、イコール健康で

ています。